

公開シンポジウム

知りたい！

ツシマヤマネコ保全の最前線

2022年2月5日(土)

13:30-16:30 オンライン

プログラム

◆第1部 ツシマヤマネコ保全の現状

「ツシマヤマネコの野外調査から—現状と課題」

伊澤雅子 (北九州市立自然史・歴史博物館)

「野生復帰技術開発の取組状況について」

木滑黄平 (環境省対馬自然保護官事務所厳原事務室)

◆第2部 本プロジェクトでの取り組み

「プロジェクト紹介」 村山美穂 (京都大学)

「ツシマヤマネコの繁殖をフンから調べる～飼育下繁殖の推進において」

楠田哲士 (岐阜大学)・木下こづえ (京都大学)

「生殖細胞保存によるツシマヤマネコ保全の可能性」

藤原摩耶子 (京都大学)

「ツシマヤマネコの遺伝子解析」

伊藤英之 (京都市動物園)

◆総合討論

参加費 : 無料

参加方法 : 下記、Googleフォームよりお申し込みください。QRコードはこちら→
(<https://forms.gle/BDYh4pGgvXGfahKr8>)

申込締切 : 2022年2月3日 (木)

お申し込みの方には、改めてオンライン開催の接続先をメールにてお知らせします

共催 : 京都大学 野生動物研究センター

京都大学 霊長類学・ワイルドライフサイエンスリーディング大学院

後援 : 環境省九州地方環境事務所、日本野生動物医学会

お問合せ : シンポジウム実行委員会

email: env42101-contact@googlegroups.com



知りたい！

ツシマヤマネコ保全の最前線

趣旨説明

ツシマヤマネコは、長崎県の対馬に生息するヤマネコの一種で、野生の数は90-100頭と推定されています。生息環境の変化・分断化、野生化したイエネコからの病気感染、交通事故などで数を減らし、絶滅がもっとも心配される絶滅危惧IAに分類されています。ツシマヤマネコは、国内の10の施設で約30頭が飼育されています。飼育下での繁殖の成功率を上げるために、私たちは、生殖細胞を活用できないかと考え、2021年度から、環境研究総合推進費の委託を受けて、精子や卵子の保存条件を検討する研究を開始しました。本シンポジウムでは、こうした「生息域外保全」の取り組みや、野生下での研究をご紹介します。

◆第1部 ツシマヤマネコ保全の現状

「ツシマヤマネコの野外調査からー現状と課題」

伊澤雅子（北九州市立自然史・歴史博物館）

長崎県対馬は大陸と九州を結ぶ特殊な生物相を有しています。その1種であるツシマヤマネコは国内では対馬のみに分布するベンガルヤマネコの島嶼個体群です。本講演ではツシマヤマネコの生態と生息状況および保全上の問題点について解説します。

「野生復帰技術開発の取組状況について」

木滑黄平（環境省対馬自然保護官事務所厳原事務室）

ツシマヤマネコの野生個体群の絶滅を回避するための保全施策の一つとして位置づけられる野生復帰。ツシマヤマネコ野生順化ステーションで実施している野生復帰に関する技術開発の取組状況についてご説明します。

◆第2部 本プロジェクトでの取り組み

「プロジェクト紹介」

村山美穂（京都大学）

絶滅を防ぐために、遺伝子やホルモンの情報から最適な個体の組み合わせを選抜し、精子や卵子を長期保存できる条件を研究します。

「ツシマヤマネコの繁殖をFUNから調べる～飼育下繁殖の推進にむけて」

楠田哲士（岐阜大学）・木下こづえ（京都大学）

動物園や野生順化ステーションとともに、糞からホルモン変化を調べ、繁殖生理を解明しようとしています。野外の死亡個体も活用して分析しています。これらの研究がどのように飼育下繁殖の推進につながっていくのかを紹介します。

「生殖細胞保存によるツシマヤマネコ保全の可能性」

藤原摩耶子（京都大学）

精子と卵子を生きたまま長期保存することができれば、人工繁殖技術と組み合わせることで、ツシマヤマネコの繁殖の機会を増やせると期待されます。この実現に向けた、モデル動物での研究と、飼育下と野生下で死亡したツシマヤマネコでの取り組みを紹介します。

「ツシマヤマネコの遺伝子解析」

伊藤英之（京都市動物園）

遺伝子解析により、遺伝的多様性や血縁関係を推定するだけでなく、動物が食べているものを調べたり、過去の集団の大きさや年齢を推定したりすることができるようになってきました。ツシマヤマネコの遺伝子解析からわかってきたことを紹介します。